

1位山形、2位青森、3位島根 '87CMSCチャレンジカップ1~8月集計結果



全日本ラリー選手権シリーズ第7戦、モンレー-87で5位入賞のCMSC青森・大西選手の走り。



'87CMSCチャレンジカップの1~8月の集計が出た。クラブ別ポイントでは山形の225点だが、これは小川選手の東北ラリーチャンピオン、小野、蜂谷選手のダートラ戦での活躍によるもの。青森の164点が続く。これは大西/永沢組の全日本ラリー選手権シリーズでの入賞、東北ラリーチャンピオン・シリーズ第3戦での館山/永沢組の優勝、福士/葛西組の東北第2戦入賞などに負うところが大きい。次いで島根、帯広、栃木だが、これは次ページの各支部からの報告にあるように、各地に新しいダートトライアルコースが誕生して各種大会が開催されているが、それへの積極的な参加によるもの。残念ながら東北ラリーチャンピオン・シリーズは中止になってしまったが、9~11月は各地での競技会も目白押し、まだまだ最終結果は予測出来ないようだ。



日本海ダートラシリーズで活躍するCMSC島根・国谷選手。



ラリーだけではなくレィスでの善戦が目立つCMSC山形・小川選手。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5	6~8	9~11	12	合計
帯広	62	40			102
札幌	0	49			49
青森	60	104			164
岩手	32	0			32
山形	125	100			225
仙台	2	0			2
福島	38	22			60
栃木	26	74			100
群馬	11	3			14
埼玉	10	0			10
岐阜	9	34			43
島根	71	68			139
香川	41	0			41

●ラリー部門 ドライバー

大西 康弘	青森	70
館山 正嗣	青森	64
小川日出生	山形	56
高橋 光男	福島	42
千田 俊二	札幌	40
福士 文秀	青森	22
武蔵 秀雄	岩手	16
菅野 茂	山形	12
菅野 茂	福島	10
工藤 清人	青森	8

●ラリー部門 ナビゲーター

永沢 裕之	青森	64
吉田 東悦	福島	42
葛西 一省	青森	22
村山 豊	山形	12
佐藤 忠宣	福島	10
石井 隆夫	青森	6
中村 洋次	帯広	5

●スラローム部門

国谷 益雄	島根	54
井馬 隆之	帯広	50
小野 馨	山形	42
川俣 豊一	栃木	41
白井 修	香川	41
杉坂 啓一	島根	40
富樫 昭彦	帯広	36
蜂谷 重則	山形	34
菅野 茂	山形	27
郡司 義光	栃木	26

●レース部門

小川日出生	山形	24
栗田 律雄	岩手	10
蒲原 芽里	埼玉	10
佐藤 孝寿	仙台	2
上泉 晃祥	福島	2
松本 久雄	栃木	2
荒井 信介	群馬	2

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
ポイント B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

A=ラリー………全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ
スラローム………全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMSシリーズ
レース………全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ
B=それ以外の競技会

リタイアには予選不通過も含む

CMSC岩手

第3回岩手三菱ダイヤモンドトライアル 岩手県ダートトライアルシリーズ第3戦
7月5日(日) 岩手県盛岡市雫石特設コース

ダートラ日和に恵まれて、シリーズ第3戦白熱

当初は参加申込みが少なく、大会開催に一抹の不安を感じさせた「第3回岩手ダイヤモンドトライアル」でしたが、関係者の努力もあって63台とまずまずのエントリー台数になりました。スタッフのほとんどは、会場設営のため前夜から泊まり込みでしたが、おかげで前夜祭も一段と盛り上がったものになりました。

大会当日は午前中から晴になり、絶好のコンディションでした。コースは雫石地区の特設会場で、1周約1kmで所要タイムは1分15秒前後の設定です。シリーズ戦ということもあって、シリーズポイントを目指して各選手とも白熱した走りを見せてくれました。

中でも、秋田県からエントリーしたC-1クラスの加藤正美選手は、ハッスルのしすぎで1回目に大転倒してしまいましたが、2回目には実力を発揮してクラス2位に入りました。予定したタイムスケジュールを完全にこなすことが出来て、狂前には結果の暫定発表という早さでした。クラブ員の大会を盛り上げる努力に感謝。CMSC岩手の団結もますます強固になったと思います。

ちょっと残念なのは、例年この「三菱ダイヤモンド」はラリーとトライアルと、年に2回大会があるのですが、今年は諸々の事情もあってトライアルのみになったことです。

(CMSC岩手 吉清水真子)



審査委員長はおなじみ藤村氏。

CMSC栃木

'87スリーダイヤモンド・トライアル 1987栃木県ダートトライアルシリーズ第3戦
7月12日(日) 日光スピードパーク

新コースが誕生、盛会でした



各地にトライアルコースが誕生しているニュースを聞きますが、栃木県にも今回の開催場所となった「日光スピードパーク」が誕生しました。今市インターから約10分のところにあり、舗装したジムカーナ場を取り巻く外周がダートコースになっています。

コースは1周800mと短いので、今回は2周するコース設定。短いなりにテクニカルなところ、スピードののるところと、変化に富んでいて面白いコースです。参加は159台とこれまでに多く、オフィシャルを務めたクラブ員は大変でした。

三菱車の参加はB3クラスに10台、C2クラスに2台でした。スタリオンとランサーで、コルディアの参加がなかったことに後で気が付きました。三菱賞の第1位は黒川直行選手(スタリオン・B2クラス)、2位は天堤忠次選手(ランサー改・C2)、3位は吉田取選手(ランサー・B3)でした。このシリーズも残り2戦、上位に入賞し、チャレンジカップの上位も目指したいと思います。また、グループAにも第3戦からエントリーしていますがセッティングが煮詰っていないので第4戦からと思っています。応援してください。

(CMSC栃木 明田 俊英)

CMSC香川

'87CMSCアストロトライアル 四国ダートトライアルシリーズ第7戦
7月26日(日) 香川県志度町香川スポーツランド

変化に富んだコース設定が好評

CMSC香川市例の87CMSCアストロトライアルを開催。今回のコースは前半が3速全開の高速コース、後半がパイロンによるテクニカルコースと、コース設定に変化をもたせました。参加台数は74台でした。炎天にもかかわらず大勢のギャラリーの観戦があり、盛大な大会になりました。

三菱勢はB-2クラスに2台、C-2クラスに1台と、ちょっとさみしいエントリーでした。トラブルもなく午後3時には競技を終了、日のあるうちに表彰式を行いました。三菱賞にはC-2クラスの藤原政彦ランサーが1位に、B-2クラスの香川俊哉ランサーが2位、同じくB-2クラスの三谷悦宣ランサーが3位になりました。

今回は、コース設定、賞品ともエントリーに好評でした。盛会のうちに大会を終了す

ることができたのも、35°Cを越える熱さのなかで埃まみれになりながら頑張ってくれたクラブ員の努力あってのもの。ご苦労さまでした。また本部の方々には、さまざまなご援助をいただき感謝にたえません。この場を借りて御礼申し上げます。今後も楽しいイベントを開催したいと思っています。

(CMSC香川 菅野仁司)



三菱賞第1位・藤原政彦選手。



三菱賞第2位・香川俊哉選手。



三菱賞第3位・三谷悦宣選手。

CMSC島根

'87CMSC島根ダートトライアル 日本海ダートチャンピオンシリーズ第6戦
8月16日(日) 比田スポーツランド山陰

エントリー113台 これまでの最多出場台数でした

全12戦の日本海シリーズも折り返しの第6戦。毎年恒例となったCMSC島根、真夏のトライアル。今年も113台と、これまでの最多の参加台数を数えました。前日にどしゃぶりの雷雨がやって開催が心配されましたが、当日は晴て、ひと安心でした。

今回は思いっきりぶつとびのコースにしようとして、パイロンをほとんど使わないストレートの長い設定にしました。どの選手もブツン走行を満喫していたようです。(ブツンしすぎて、ハデにコケた人もいましたが…)

スケジュールは予定より多少遅れましたがなんのトラブルもなく終了しました。三菱車のエントリーは19台と多く、ただ一台コルディア4WDで出場した齊藤徹男選手が、迫力

のある走りを見せてギャラリーの注目を集めていました。結果は、CD-IIクラスで長船哲也選手のランサーが3位と健闘、ラリーアート賞トップに輝きました。また2位には谷口成次郎選手が、3位には岩城克己選手がそれぞれランサーでラリーアート賞を獲得。

今回の会場は比田スポーツランド山陰で、ここは山陰地区初の常設ダートコース。地元村おこしのタイヤアップで作られたコースで、アップダウンに富み、幅も広くテクニカルにもハイスピードにもできる場所です。往復の道がまだ整備されていませんが、これからも機会あることに利用していきたいと考えています。

(CMSC島根 見崎 千里)



ラリーアート賞1位の長船選手



右よりラリーアート賞1-6位の面々

CMSC帯広

第3回トレランス杯 COLTダートトライアル 道東ダートトライアルシリーズ第3戦
8月23日(日) 帯広市近郊士幌町下居辺朝陽イーストジャパンオフロードスタジアム

テクニカルなコースを、 富樫ランサー快走!



道東シリーズ第3戦として行なわれたCMSC帯広のCOLTダートトライアル。前日まで降っていた雨はどうにか上がって、すっかり秋めいた空の下でのスタートとなりました。

コースレイアウトはフルターン、360°、450°、スラローム2カ所を含む1.5km。道東シリーズとしてはめずらしくテクニカルな設定で、選手や観客にも好評だったようです。

最初ウェットだった路面も、気合の入った走りが続いたせいか、1トライ終了時にはすっかりドライに。グリップを回復した2トライめが勝負と、激しいレース展開となり、タイムを10秒以上縮める選手もいました。

三菱車のエントリーはFRクラスのみでした。井馬ランサーは1トライめでトップを取り、2トライめはさらにタイムを2秒縮縮、痛恨のパイロンタッチがあって第3位、三菱賞2位の好成績でした。1トライめ5位だった富樫ランサーも2トライめに得意のスラロームをピシッと決めて第3位、三菱賞1位を獲得。三菱賞3位には高橋ランサーが入りました。

表彰式では、たくさんの賞品と賞金が手渡され、各選手ホクホク顔。観客も大満足の楽しい一日でした。

(CMSC帯広 青沼 達也)

CMSC福島

7月25日(土)~26日(日)
山形県米沢市五色温泉

2日間充実の総会を開催!

7月25日の夕方から、新田クラブ員の顔合わせもかねて、泊まり込みで総会を行ないました。開催場所には五色温泉の宗川旅館様に協力してもらい、久しぶりの大きな会となりました。

午後7時30分旅館に集合。夕食をとったあと、9時からミーティングを開始。87~88年のクラブ方針、ラリーアートのクラブ員援助の説明、ミラージュカップのレース参加、定期走行練習会の内容など、数々の課題が討議されました。出席者は50人でしたが新しい会員からも積極的な意見が出るなど、熱の入ったミーティングとなりました。

ミーティング終了後は、予定通り練習走行会に。五色温泉の駐車場と私道を利用したターマック部門とグラベル部門に分けて開催しました。ジムカーナ、レースに参加するクラブ員と、ダートトライアル、ラリーに出場するメンバーの両方とも満足できる内容になったと思います。とくに今回は、ベテランクラブ員が新人の走りを見

るなど、新入クラブ員にとって充実した練習会となったようです。

翌26日の早朝には再び旅館で反省会を開き、スケジュール通りに閉会となりました。今後もこのような会を年に3回以上行なっていきますので、よろしく願います。

(CMSC福島 菅野 茂)



CMSCイベントスケジュール

- 10月18日(日)
ダートトライアルフェスティバル・IN・山形
CMSC山形
場所: 月山: サーキット
- 11月1日(日)
CMSC帯広ダートトライアル
道東シリーズ第6戦
CMSC帯広
場所: イーストジャパンオフロードスタジアム
- 中止のお知らせ
11月10日(土)~11日(日)に開催を予定していたCMSC栃木の主催による「ダイヤスターラリー・IN・栃木」は都合により中止となりました。
- 10月25日(日)
ミラージュカップ東北シリーズ第4戦
場所: 西仙台ハイランドレースウェイ
CMSC 7チームが参加を予定している。

大西康弘選手 (CMSC青森) コルディア4WDで全日本ラリー選手権シリーズに活躍!

すでにモータースポーツ誌などでご存知の方も多いと思うが、CMSC青森の大西康弘選手とナビゲーター・村上平選手が全日本ラリー選手権シリーズで活躍している。シリーズ第4戦のツール・ド・東北87ではハイパワー車に伍して3位に入賞した。

続く第5戦、ツール・ド・ミカサは8位。第6戦、ツール・ド・九州ではタイムカードの提出遅れによるペナルティで順位を下げたが、9月12日(土)～13日(日)に行なわれた第7戦、モンレー87で5位に入賞し、シリーズ有効ポイントを133に伸ばしてシリーズポイントでも上位争いに加わっている。

シリーズ戦は10月17日(土)～18日(日)に開催される最終戦・ラリーハイランドマスターズ87のみとなったが、CMSCとしては大西/村上組の上位入賞を期待し、声援を送りたい。



第7戦、モンレー87を走る大西/村上組のコルディア4WD。



第4戦、ツール・ド・東北は3位に。



モンレーにはCMSC群馬のメンバーもオフィシャルで参加。右端はギャラリー参加のCMSC橋木・海老沼氏。



モンレーで4位に入賞したアドバンチームの藤田選手。

直前に恨みの雨が...

ミラージュカップ東北シリーズ第2戦
7月26日(日) 菅生サーキット

東北シリーズ第2戦にはCMSCから6チームがエントリーしたが、新型車の多いフレッシュマンとの混走のため、予選を通過したのはCMSC仙台の佐藤政一選手と本部の加藤元章選手だけであった。スタート直前に激しい俄雨が降り、ウェットコンディションに、ドライにセッティングした足回りのままレースに臨んだ佐藤選手は、上位進出を期待させる走りを見せたが、何度かスピンしリタイア、加藤選手は総合25位で完走、東北シリーズ7位であった。CMSC仙台のメンバーたち。



●自戦記● 人もクルマも、トラブルに泣いた。

秋田県で行なわれたB地区地方スピード選手権に出場したので、ご報告。

今回は大会前日から会場の近くに宿泊する万全の体制で、「明日は頑張るゾ」と早めに床についたのですが、明け方に右足がケイレンして痛さでとび起きました。不吉な予感を胸に会場へ。コースは前日の雨でドロドロ。1回目は4WD車までスタックする始末。いよいよ自分のスタートだと思ったら、また足にツーンとケイレンが…。ままよ、やるっきやない! とコーナー、S字と攻めて直線へ、「あれ、加速しない……」おかしੀと思いつつゴールした。

ケイレンを直して2本目。やっぱり加速がいまいち。ゴールしてから色々チェックしてみると、インジェクションに巻いていたテープからシューという音がでていて、テープを取るとエンジンが止まってしまった。さんざんな結果でしたが、みなさん、夜中に足がケイレンした経験がありますか。

(CMSC岩手 山本 一)

●自戦記をお送りください●クラブからのレポートではなくクラブ員の方々の自戦記を募集しています。メモ書きでもOKですが、必ず写真を添えてください。